

聖護院門跡へ「修復中・役行者尊像内の文書」返納保管に訪問

◇実施日：2017年01月19日(木) 小雨のち曇り時々晴

◇参加者：山上皓一郎、川島 功、沖崎吉信、仏師：浅村朋伸。

◇面談者：聖護院門跡 宮城泰年門主、中村覚祐執事長、
草分俊顕庶務主事。

行仙宿・行者堂の役行者尊像は、玉岡前世話人が聖護院門跡に寄進・寄贈を要請され、仏師・佐川定慶氏により軽微な修復をして頂き、平成2年(1990年)に行者堂に安置されました。

行者堂は、風雨は避けられるが、過酷な状況下(気温：夏季30℃、冬季氷点下10℃前後及び湿度の変化大)で安置されている事から、昨年5月に熊野修験奥駈行に参加された行者から「傷みが激しく修理要」を指摘され、7月初旬にお性根抜きをして、仏師・浅村朋伸氏に修復を依頼しました。

浅村仏師(2/23)から修復のため行者尊像を解体したら、願文「元禄15年(1702年)に天下泰平、国土安全、聖護院宮御門跡の長寿、今大路雑務法眼、さらに旦那や同行達の息災を願い、理正院の鶉飼行家によつて造立され、三山檢校宮・道尊親王(1675～1705)が開眼供養を行った像のようです(文書写真添付)」の連絡がありましたので、由緒ある像であり、寄進して頂いた聖護院門跡・宮城泰年門主様に直ぐに、願文文書の今後の取扱に関して御教示ご指示をお願い申し上げます。

聖護院門跡に返して頂き、聖護院古文書室に一史料として後世に伝えるために保管しますとご返書を頂きました。

本日、奈良市の仏師・浅村氏宅に立寄り、修復中の役行者像と対面し、尊像内にあった願文文書を預かり、返納・保管して頂くために浅村車に乗換え、聖護院門跡を訪問した。

面談は、次のような事でした。

一、尊像内の文書は、聖護院古文書室に保管。
二、文書(もんじよ)は、判読して頂き、内容を平易な文書にして教えて頂きたい。

三、宮城泰年門主様にて、平成の修復に関する文書を作成し、像内に入れて下さる。(文書内容等は聖護院門跡に一任)

四、浅村仏師は、門主様と相談し、像内挿入の細工をする。

五、開眼供養は、聖護院が行仙宿・行者堂に出仕して、執り行つて頂きます。

六、開眼供養の日程は、当方から春季連休を避けた、連休前の4月か連休後の5月に執り行いたい、出来れば連休前が望ましい。

七、日程は、浅村仏師が修復を終える日と聖護院が出仕に都合の良い日を調整して決めて、当方に連絡して頂く。尚、当方は土日にごだわらない。

八、開眼供養に伴うお供えなど、当方が準備する物はお教え願います。以上。

これまで応接間での面談に終始したので、聖護院門跡内を見学させて頂きました。

廃仏毀釈により末寺からお預りした仏像展が、特別展示されていました。

聖護院門跡は、光格天皇の仮御所だそうで、狩野派の豪華絢爛な金箔障壁画で彩られ、宸殿内陣(当方持参のお供えも供えられていた)、本堂の本尊・不動明王、智証大師円珍像、後水尾天皇が女院のために建てた繊細で優美な書院などの貴重な文化財を案内・見学させて頂きました。誠にありがとうございました。

行動タイム

新宮6:25→10:10 秋篠寺(待合せ)10:15→浅村宅10:50→12:00 昼食
(聖護院近辺)12:30→12:45 聖護院門跡 14:30→16:10 乗換え駐車場→20:00 新宮。
(記 川島)

浅村氏宅の修復中の役行者尊像



宮城門主に文書返納

